PRESS RELEASE
2026 年 11 月 11 日
積水ハウス株式会社

子ども一人一人の「好き」と感性を社会全体で育む
産官学で考える「キッズ・ファースト フォーラム」を開催

- 子どもの感性育成を応援する企業の具体的実践として「保育園留学」の福利厚生化を決定 -

積水ハウス株式会社（以下、積水ハウス）は、子ども一人一人の「好き」や感性を社会全体で育むため、産官学の有識者とともに考える「キッズ・ファースト フォーラム」を 2026 年 11 月 11 日（水）に開催します。また、子どもの感性を応援する企業としての新たな具体的実践として、株式会社キッチハイクが提供する「保育園留学」を福利厚生制度に導入することを決定しました。従業員とその家族に、普段とは異なる自然や文化、人との出会いを通じて、新たな興味や「好き」を見つける体験機会を提供します。



積水ハウスは、グローバルビジョン“「わが家」を世界一幸せな場所にする”の下、住まいと暮らしの両面から、子どもたちの幸せにつながる「キッズ・ファースト」の取り組みを推進してきました。これまでの実践を通じて、子どもたちが自分らしく幸せに生きるためには、自分の「好き」や「大切」に気づく「感性」が重要であると考え、その想いを形にした取り組みを進めています。

今回のフォーラムを契機に、企業や教育関係者、地域などとのつながりをさらに広げ、子ども一人一人が自分らしい幸せを見つけられる社会の実現を目指します。

＜今回の取り組みのポイント＞
・産官学の有識者が集まり、子どもの感性を育むために社会全体でできることを考える「キッズ・ファースト フォーラム」を開催
・住まいと暮らしの両面から子どもの幸せを追求してきた積水ハウスが、「感性」に着目。企業が子どもの感性育成を応援する新たな具体的実践として「保育園留学」を福利厚生制度に導入
・本フォーラムを契機に、企業・行政・教育機関・地域など、さまざまな立場から子どもの幸せを考え、知見や実践を共有する取り組みを推進
・子どもの感性をテーマとした新たな Web コンテンツ「100 の Wonder」を公開し、社会との対話を促進

■「キッズ・ファースト フォーラム」開催の背景

近年、生成AIの普及など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中、便利な情報や技術に触れる機会が増える一方で、子どもたちが自ら興味や関心を持ち、主体的に考え、行動する力の重要性が改めて注目されています。文部科学省・中央教育審議会が2026年10月に取りまとめた「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」では、子どもたちの現状について「自身の思いや願い・意志を実現し、自身の人生を主体的に舵取りしていく力に課題が見られる」と指摘され、学習においても、子どもたちが自らの思いや願いを実現し、主体的に人生を歩む力を育むことの重要性が示されています。

積水ハウスはこれまで、「子どもは未来の宝である」という考えのもと、住まいと暮らしの両面から子どもの幸せに向き合ってきました。その中で、子ども一人一人が自分の「好き」や「大切」に気づく「感性」の重要性に着目し、その価値を大切にした取り組みを進めています。

子どもの感性を育むことは、一企業だけで実現できるものではありません。本フォーラムでは、産官学の有識者とともに、子どもの「好き」や感性を社会全体で育むために何ができるのかを考えます。さらに、本フォーラムを契機に、企業、行政、教育機関、地域など、さまざまな立場から子どもの幸せについて考え、知見や実践を共有する取り組みを進めていきます。

※1　文部科学省「OECD 生徒の学習到達度調査「PISA2025」のポイント」より
※2　文部科学省「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ（1／4）」（2026 年 10 月 5 日）
※3　UNICEF-Innocenti-Guidance-on-AI-and-Children-3-2025.pdf

＜「キッズ・ファースト」ステートメント＞

昨日までの常識が、明日にはもう変わっているかもしれない。
便利な情報がすぐ手に入る一方で、何を信じ、
何を選び、どう生きていったらいいのか？
積水ハウスは、子どもたちの幸せを大切に考えてきました。
「わが家」を世界一幸せな場所にする。
このグローバルビジョンを実現するための答えのひとつが、
子どもたちの「感性」を育むことだと信じています。

「今日はこっちかも」とか「なんか気になる」とか「私はこれが好き」とか。
みんなと同じじゃなくていい。
自分の心が動いたものに気づき、自然と体が動いてしまう不思議。
それは、自分で世界の見方を広げ、何が幸せかに気づくための「感性」です。

日々の暮らしの中で、一人ひとりの中にある「感性」を大切にしていきたい。
特別なことじゃなくていい。できることは、きっとある。

子どもたちが幸せになるためにできることを、もっと。

KIDS FIRST

■「キッズ・ファースト フォーラム」開催概要

日　時　：2026 年 11 月 11 日（水）13:00～14:30
会　場　：TRUNK（HOTEL） CAT STREET　BANQUET ROOM「MORI」
登壇者　：文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田村 学 氏
京都大学大学院教育学研究科 准教授 高橋 雄介 氏
株式会社キッチハイク取締役 / こどもと地域の未来総研 所長 川上 真生子 氏
積水ハウス株式会社 代表取締役兼 CEO 社長執行役員 仲井 嘉浩
積水ハウス株式会社 執行役員 ESG 経営推進本部長 山田 実和
積水ハウス株式会社 R&D 本部 総合住宅研究所 未来価値研究グループ 服部 正子
司会進行：国山 ハセン 氏

<プログラム・主な内容>
○オープニング（仲井）
積水ハウスが続けてきた、子どもの感性を応援する“キッズ・ファースト”の取り組み
○基調講演（田村氏）
好きを育み、得意を伸ばす　―学習指導要領の改訂に向けてー
○具体的実践（川上氏、山田）
積水ハウスと他企業さまとの連携・実践のご紹介
○研究報告（高橋氏、服部）
子どもの感性・社会性の発達を目指して　保育園留学による感性育成の示唆
○パネルディスカッション（高橋氏、川上氏、仲井　※司会進行：国山氏）
子どもの感性はどこで育まれるのか？社会や企業ができることとは？

■積水ハウスの「キッズ・ファースト」の取り組み

積水ハウスは、住まいづくり、研究、教育、社会貢献など、さまざまな領域から子どもの幸せを支える「キッズ・ファースト」の取り組みを推進しています。

住まいの分野では、子どもの居場所づくりを考えた「キッズでざいん コドモイドコロ」や、家族のつながりを大切にした「ファミリースイート」、「子どものためのスマートユニバーサルデザイン」など、子どもの成長や安全、家族のコミュニケーションに配慮した住まいづくりを進めてきました。また、キッズデザイン賞では、第 1 回から 20 年連続で受賞し、累計 136 作品が受賞しています。

暮らしの分野では、企業や社会全体で子育てを支える環境づくりにも取り組んできました。男性育休の推進では、2018 年に特別育児休業制度の運用を開始し、2019 年 2 月以降、対象となる男性社員の取得率 100%を継続しています。また、「積水ハウス マッチングプログラム」などを通じて、社会課題の解決に取り組む団体の活動も支援しています。さらに、2008 年からは、住まいやまちづくりで培ってきた知見を生かした出張授業や体験授業などを実施してきました。

こうした住まいと暮らしの両面から子どもの幸せを考える中で、当社は、子どもたちが自分の「好き」や「大切」に気づく「感性」の重要性に着目しました。その想いを具現化した取り組みの一つが、2025 年 8 月に開業した小学生向けの体験型施設「JUNOPARK」です。子どもたちが自ら問いを見つけ、考え、試し、発見する体験を通じて、感性を育み、自分らしい幸せに気づくきっかけを提供しています。

また、2024 年からは京都大学との共同研究を通じて、子どもの感性の育ちと住環境との関係について研究を進めています。今回の「保育園留学」の福利厚生制度への導入も、これまでの取り組みの延長線上にある、子どもの感性を応援する新たな実践です。

積水ハウスは今後も、これまでに培ってきた住まい・暮らしの知見や実践を生かしながら、教育関係者や企業・団体、地域など、さまざまな立場の方々とのつながりを広げ、社会全体で子どもの感性を応援する取り組みを進めてまいります。

■「保育園留学」福利厚生制度への導入について

企業との連携による取り組みの第一弾として、株式会社キッチハイクと連携し、同社が展開する「保育園留学」を積水ハウスの福利厚生制度に 2027 年 2 月より導入します。

「保育園留学」は、子どもが普段過ごしている地域とは異なる保育園に通いながら、家族でその地域に滞在する取り組みです。普段とは異なる自然や文化、人との出会いを通じて、子どもがさまざまなことを感じ、新たな興味や「好き」に出会う機会となります。また、こうした体験を通じて、親が子どもの新たな一面や可能性に気づき、その気づきを日常に持ち帰ることで、普段の暮らしや親子の関わりを見つめ直すきっかけとなることも期待しています。

制度導入に先立ち、2026 年 6 月から 9 月に 30 組の従業員家族を対象にトライアルを実施しました。参加後のアンケートでは、満足度は 100%、96.6%が「来年も利用したい」と回答しました。また、約 9 割が家庭の日常や見え方にも変化があったと回答しました。

今回の導入により、子どもに多様な経験をさせたいと考える従業員とその家族に、新たな体験の選択肢を提供します。積水ハウスは、企業がこうした体験へのハードルを下げ、家族の選択肢を広げることも、子どもの感性を大切にできる環境づくりの一つだと考えています。

■新「キッズ・ファースト」サイト公開

子どもの感性をテーマとしたインタビュー企画「100 の Wonder」をスタート

「キッズ・ファースト」の取り組みの本格化にあわせ、新たなウェブサイトを公開します。本サイトでは、活動理念や活動内容、調査レポート「暮らしにおける子どもの育ちに関する意識・実態調査 2026-AI と感性-」、積水ハウスがこれまで取り組んできた子どもの育ちに関する研究・実践などを紹介します。

また、子どもの感性や「好き」を大切にできる社会づくりについて、積水ハウスが聞き手となり、さまざまな分野の有識者や実践者の視点から考えるインタビュー企画「100 の Wonder」もスタートします。第 1 回では、東京大学公共政策大学院 鈴木寛教授と一緒に、教育の視点から「感性（SENSE OF WONDER）」の重要性や育まれ方をひも解くとともに、家庭や教育現場、企業、地域などが連携して子どもの育ちを支える意義について考えます。

●サイト URL：https://www.sekisuihouse.co.jp/kidsfirst/